

U.S. Indicators

発表日: 2023年8月31日(木)

米国8月CB消費者マインドは消費の小幅減速示唆

～消費者は「景気」、「雇用」の現状に楽観も先行きを悲観～

第一生命経済研究所 経済調査部

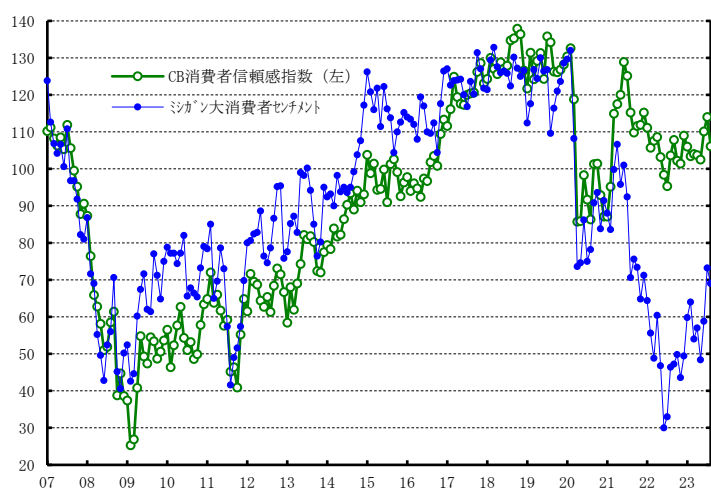
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 050-5474-7493)

23年8月のCB消費者信頼感指数は、106.1（前月114.0：速報117.0）と7.9ポイント低下し、市場予想の116.0（筆者予想117.9）を大幅に下回ったうえ、前月の数値が下方修正された。CB消費者信頼感指数は、6、7月に大幅に上昇し、個人消費を押し上げたが、今回の大幅低下は8月の個人消費の鈍化に繋がった可能性が高い。ただし、8月の消費者信頼感指数の水準は、底堅い景気、逼迫した労働市場を背景に高い水準を維持しており、消費の緩やかな減速を示唆していると判断される。

現状指数が144.8（前月153.0：速報160.0）と前月比▲8.2ポイント低下したほか、期待指数が80.2（前月88.0：速報88.3）と同▲7.8ポイント低下し、全体を押し下げた。米中堅銀行破綻を受けた信用状況の引き締まりが続くなか、市場金利、食料品やガソリン価格の上昇、これらによる景気の先行き悪化懸念の強まり等によって、景気、雇用の現状に対する楽観的な見方が弱まったうえ、景気、雇用の先行きに対する見方が再び悲観に転じた。

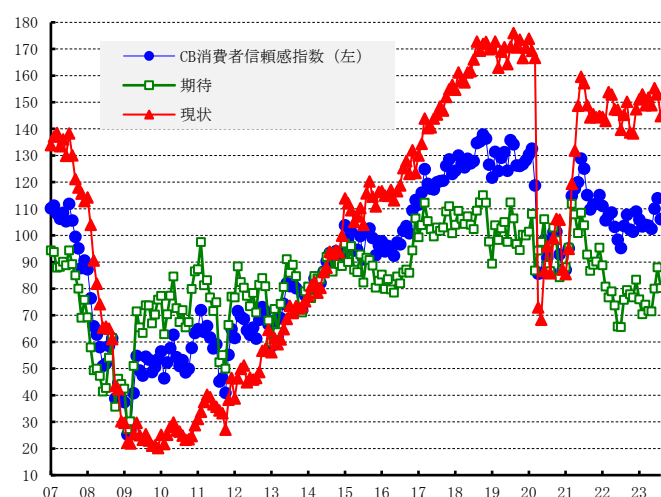
23年末にかけて、利上げ終了期待の高まりを受けた長期金利の安定や、景気後退懸念の弱まり等が、期待指数の下支えに繋がる可能性が高い。一方、これまでの利上げや中堅銀行の破綻を受けた信用状況の引き締まり、コスト増加等を受けた景気の減速、労働需給ひっ迫の緩和を背景に、現状指数が低下すると見込まれる。この結果、CB消費者信頼感指数は緩やかに低下し、個人消費減速の一因になると予想される。

(図表) 消費者マインドの動向(月次)



(出所) CB、ミシガン大学

(図表) 消費者マインドの動向(月次)



(出所) CB

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

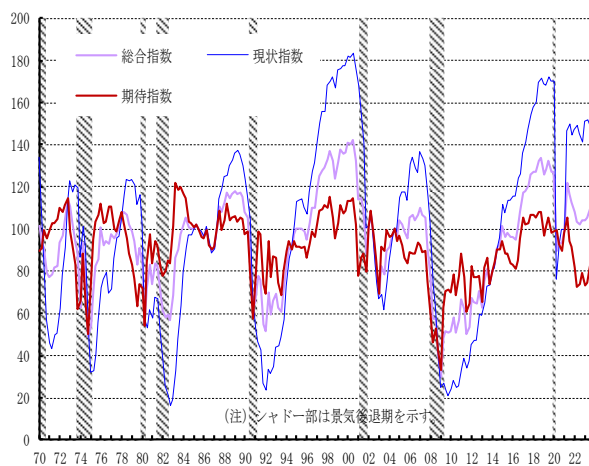
	消費者信頼感指数										ミシガン大学消費マインド ¹⁾	
	期待指数		現状指数		雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		期待	現状
					充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅		
22/08	103.6	75.8	145.3	47.6	11.6	17.3	21.7	9.6	5.5	58.2	58.0	58.6
22/09	107.8	79.5	150.2	49.2	11.1	18.6	21.9	9.9	5.0	58.6	58.0	59.7
22/10	102.2	77.9	138.7	44.8	13.0	19.6	24.3	12.9	7.4	59.9	56.2	65.6
22/11	101.4	76.7	138.3	45.2	13.7	19.8	21.0	10.4	6.5	56.8	55.6	58.8
22/12	109.0	83.4	147.4	46.4	11.9	20.9	19.9	11.0	6.6	59.7	59.9	59.4
23/01	106.0	76.0	151.1	48.1	11.1	18.4	22.6	11.1	6.3	64.9	62.7	68.4
23/02	103.4	70.4	153.0	51.2	10.5	14.6	21.6	9.7	5.4	67.0	64.7	70.7
23/03	104.0	74.0	148.9	47.9	11.4	16.4	19.2	11.0	6.0	62.0	59.2	66.3
23/04	103.7	71.7	151.8	47.5	10.6	14.1	21.4	10.0	5.5	63.5	60.5	68.2
23/05	102.5	71.5	148.9	43.3	12.6	13.2	21.4	11.5	5.9	59.2	55.4	64.9
23/06	110.1	80.0	155.3	45.4	12.6	14.6	17.7	11.0	5.9	64.4	61.5	69.0
23/07	114.0	88.0	153.0	43.7	11.3	17.2	14.5	11.7	5.6	71.6	68.3	76.6
23/08	106.1	80.2	144.8	40.3	14.1	16.2	16.8	11.5	5.5	69.5	65.5	75.7

現状指数の詳細では、現状指数の構成項目である「景気」、「雇用」がプラス幅を縮小した。現在の景気に対する判断（「良い」－「悪い」）が+3.5（前月4.5：速報+6.7）とプラス幅を縮小しており、現在の景気に対する楽観的な見方が弱まった。また、現在の雇用機会に対する判断（「充分」－「困難」）が+26.2（前月+32.4：速報+37.2）とプラス幅を縮小、現在の雇用環境に対する楽観的な見方が弱まった。現在の雇用機会に対する判断（「充分」－「困難」）は、失業率と同じ方向に動く傾向があり、8月の失業率が7月の3.5%から上昇する可能性の高いことを示している。

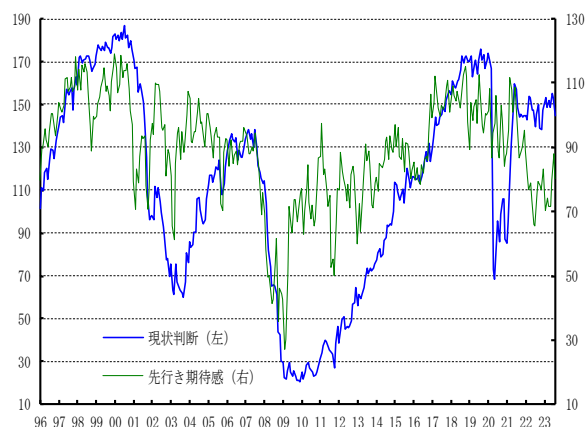
期待指数の構成項目では、「収入」がプラス幅を縮小したほか、「景気」、「雇用」がマイナスに転じ、全体を押し下げた。6ヵ月後の収入に対する見方（「増加する」－「減少する」）は、+4.1（前月+7.9：速報+6.6）とプラス幅を縮小し、楽観的な見方が弱まった。また、6ヵ月後の景気に対する見方（「良くなる」－「悪くなる」）は、▲0.6（前月+2.7：速報+3.1）とマイナスに転じ、景気の先行きに対して悲観的となった。さらに、6ヵ月後の雇用に対する見方（「多くなる」－「少なくなる」）は、▲1.3（前月+1.0：速報+1.6）とマイナスに転じ、雇用の先行きに対して悲観的となった。

インフレに関する調査では、1年先のインフレ見通しが5.8%（前月5.7%）と高い上昇が予想されており、高インフレが定着するリスクが残存している。

消費者信頼感指数の推移(四半期)

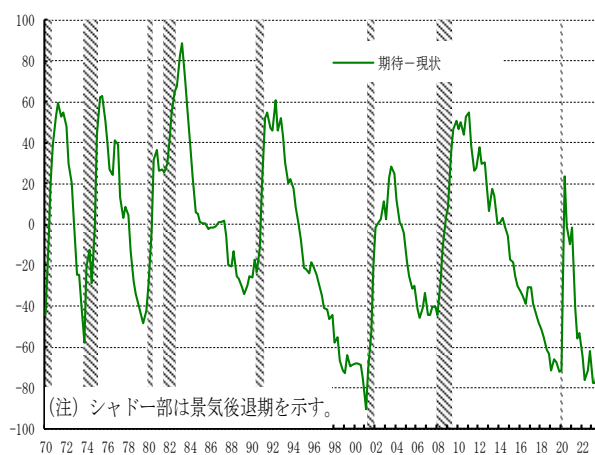


消費者信頼感指数の推移

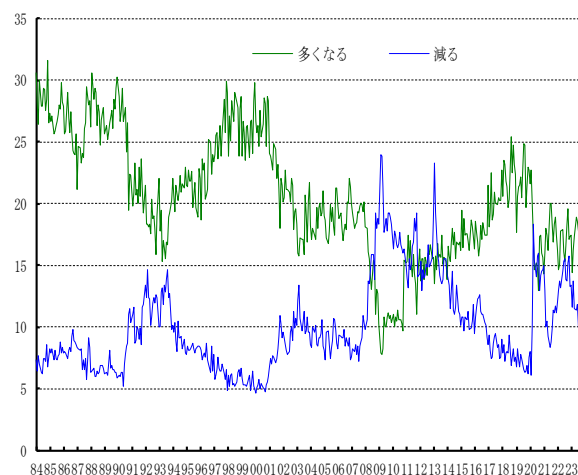


(出所) CB

(期待指数-現状指数)の推移



(%) 6ヶ月後の収入見通し



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

